

おかやま健康づくりアワード2023表彰

○ 職場部門

応募 4 社

	会 社 名	授賞理由
1	備商株式会社（岡山市 卸売業）	<ul style="list-style-type: none"> ・栄養バランスが考えられた弁当を、自己負担100円で社員に提供している。 ・KENKATSUサークルに参加している社員に、食事改善メニューの指導を実施した。 ・フィットネスジムを法人契約し、社員であれば24時間利用可能。「フットサル同好会」の活動を会社が助成し、体を動かす活動を推奨している。 ・月間15万歩を1年間継続するなど、健康に関する8項目を達成した従業員に「健康増進手当」を支給している。 ・禁煙治療費助成制度を設け、禁煙治療プログラムを受診した社員の治療費を会社で全額負担している。また、2023年6月末に屋内喫煙ルームの廃止を行い、2024年7月からは就業時間中の喫煙を禁止する予定である。
2	玉野土建株式会社（玉野市 建設業）	<ul style="list-style-type: none"> ・安全朝礼や安全会議、現場の朝礼などで、「規則正しい食生活」の必要性を定期的に啓発している。 ・定期健康診断を全社員に義務付け、特定保健指導についても必ず指導を受けるよう指示している。また、地域産業保健センターの「健康診断結果に関する意見聴取」を実施し、適宜医療機関を受診させ経過報告するよう指導している。55歳以上の従業員には健康診断時に腫瘍マーカーをオプションで実施している。 ・「がん対策推進企業アクション」、「地域肝炎対策サポーター」に登録し、がんや肝炎についての知識を社員に啓発している。

○ 地域部門

応募 8 団体

	団 体 名	授賞理由
1	健康おかやま西21推進委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・地元企業と連携し、イベントや健康教室で運動機能をチェックするテストを実施。企業には、専門分野を活かした運動機能に関する実施指導などを実施してもらっている。テストのやり方は、メンバーが習得し、主体的に実施できるよう定例会で学んでいる。 ・各中学校区の健康課題に基づいて、食育SATシステムを使った食事バランスチェックの実施や、食事・おやつに含まれる塩分量、油の量の展示をイベントや健康講座で実施。各学区栄養改善協議会と連携し、その後の食事指導や地域に根ざした食生活改善にも繋がっている。
2	津山市栄養改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者や親子を対象としたすこやか料理教室を開催し、減塩やフレイル予防などについて、食事を通じて健康づくりへの意識向上に取り組んでいる。また、野菜摂取やバランスの良い食事、適正体重の維持等をテーマにした標語を掲載した食育メモ帳を作成し、コロナ禍での個別訪問を行う際に使用した。 ・ウォーキング大会を他団体と連携して開催し、運動の場を設けるとともに、運動の効果について学ぶ研修会を開催している。住民主体のつどいのある「めざせ元気!! いけないからだ講座」等の支援を行い、フレイル予防等に取り組んでいる。
3	玉野市栄養改善協議会	<ul style="list-style-type: none"> ・幼児親子食育教室では、5歳児親子を対象に食育講話や調理実習を行い、栄養委員考案の野菜レシピカードを配布し、子どもの食育と親世代への生活習慣病予防の啓発を行っている。 ・幼児親子食育教室や高校の文化祭等において、清涼飲料水等に含まれる糖分をスティックシュガーで示した模型等を用い、う歯予防啓発活動を実施している。高齢者には、いきいき元気教室にてオーラルフレイル予防の啓発や、口腔体操を行っている。 ・令和4年度からは、栄養委員考案の「ちょっとお助け1品レシピ」の市広報紙への掲載や、YouTubeへの投稿を行い、広く啓発している。
4	笠岡市ヘルスアップ推進会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域で高齢者サロンや体操教室を開催し、ヘルスアップリーダーが考案したオリジナル体操やオリジナル棒体操の普及に努めている。 ・ウォーキングマップを作成し、マップを活用した地区ウォーキング大会の開催や、日々の累計歩数によりマップ上を進んでいけるような、日本各地を舞台としたマップを作成し、完歩者表彰を行う「ぐるりんウォーク」の開催など、幅広い年代の方が健康づくりへの意欲を高められる仕掛けづくりを行っている。
5	備前市栄養委員会	<ul style="list-style-type: none"> ・令和3年度開催のこどもクッキングにおいて、備蓄食品の食体験を通じて備蓄の大切さを伝える等、災害に備え、家庭での備蓄の必要性やバッククッキングの普及啓発等を様々な団体と連携して実施している。 ・ライフステージに合わせた食育や、食生活改善活動を行っている。昨年度は、糖尿病が増加している現象を踏まえ、生活習慣を少し変えることで大きな効果が期待できる栄養委員おすすめの「ちょい変え・ちょい足し習慣」を紹介した。